

パブリック・サービス研究分科会 10月 「業務委託と専門職」研究グループ報告書	
日時	2010年10月21日(木)
場所	東洋英和女学院大学図書館
記録	生澤(獨協大学)
参加者	生澤(獨協大学)、撰(国立音楽大学)、加藤(文化女子大学)、塩瀬(女子栄養大学)、 嶋崎(昭和女子大学)、杉本(成城大学)、山田(武蔵大学) (氏名五十音順)

【前回までの流れ】

「公共図書館職務区分表 2003 年版」に基づき大学図書館用に作り変えるための見直し作業をおこなった。

【作業内容】

今回より杉本氏が参加することとなり、7名のグループとなった。各自が研究したいこと・関心事を発表し合い、夏合宿で課題となっていた「大学図書館業務分析表」(日本図書館協会)との照合作業を行った。

【各自の意見・関心事】

- ・図書館の専門的なところを知りたい。
- ・業務委託＝質が落ちるわけではなく、むしろ専門化がすすむ。
- ・専門性に軸足を置きたい。専門性＝主題知識だとしたら、どこまで深めれば専門性が身についたといえるのか。
- ・専門性は人ではなく業務につくもの。
- ・専任職員と業務委託はどう住み分けしたらいいのか。
- ・業務委託をするための知識・評価方法が必要。
- ・業務委託側(受託側)からの文献が少ない。
- ・受託側企業の人材の育て方はどのような体制をとっているのか。

【「公共図書館職務区分表 2003 年版」見直し作業】

- ・「奉仕的業務」の業務について精査した。
- ・夏期合宿で大学図書館用に作り変えるための見直し結果と、「大学図書館業務分析表」の照合を実施。
- ・大学図書館業務の全貌と専門性が高いと認められる業務と一般的な図書館業務の大まかな切り分け作業が完了し、専門性の高い業務についてのメンバー間の理解の共有化が図れた。これをもって、同作業はひと段落とした。

【次回までの課題】

業務委託に関連する文献を広く収集し Google ドキュメントへ要約を UP することを確認した。